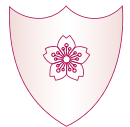


# 鳳鳴会会報



第33号  
2004. 6. 24

発行  
秋田県立大館鳳鳴高校  
鳳鳴会  
〒017-0813 大館市金坂後6  
TEL・FAX0186-44-5411  
URL http://www.homei.jp  
題字  
藤嶋省平鳳鳴会顧問  
印刷  
武内印刷株式会社



## 平成16年度鳳鳴会総会

遅咲きの八重桜や緑色の桜・御衣黄などが母校に咲き誇る五月十日、恒例の鳳鳴会総会が秋北ホテルで開催された。今年は黄金週間明けの月曜日ということもあり参加者の減少が心配されたが、言わずと知れた開校記念日であり例年に劣らぬ七十有余名の参加者を得て開催された。途中、座席や資料の不足を指摘する

先生と二十二代沖田領之助校長先生でしたが、前任校の五代と七代の校長をそれぞれお務めになっておりました。また、本校在学中に世界史を教わった青木周蔵先生は、教職に就いた二年目に湯沢高校に十二代校長として赴任され、

声もあつたが、これは事務局側の手落ちではなく、出席の意思表示をされずに参加された方の問題であり、しかしながら先ずは多くの同窓生に關心を持って頂いたことを喜ぶべきと思う。

物故会員への黙祷の後、木村会長から任期を全うできたことへの謝辞などが述べられた。また新たに着任された小

松雅治校長（高校16）からは母校の校長として赴任できたことの喜びと、文部科学省SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校として多忙であることが話された。

次に平成十五年度の事業（会務）報告が各委員長および事務局長から発表され、創立百五周年事業の総括に続いて、新年度以降の抱負が述べ

られ、特に企画委員会（委員長・桑名副会長）からは記念館展示の充実や松下村塾と連動した市民講座、同窓生の園遊会などの新提案があつたほか、会費の在り方、名簿の管理・公開方法、ホームページのさらなる展開など、同窓会及び母校の興隆を促進する企画が着実に進行していることが印象付けられた。

議案では、十五年度の決算報告の他、十六年度事業計画案および予算案として（一）会報の発行、（二）地区鳳鳴会への参加並びに旅費補助、（三）地区鳳鳴会への補助金の支給、（四）母校の全国大会出場生徒・顧問に饗別、（五）新入会員に卒業記念品贈呈、（六）岩木山遭難慰霊碑・建立が承認された。岩木山遭難慰霊碑建立については現在岩木山鳳鳴ヒュッテ付近にある慰霊塔の文字が風化により判読できない状態であることから、ご遺族、十七期会からの寄付金に鳳鳴会から五万円を加えて石柱を建てるものであり、関係者のみで式典を行う予定。なお今年遭難から四十周年に当たる。この後役員改選の議案が審議され、木村会長ほか三役が再任された。

鳳鳴会の皆様には日頃から母校の教育活動に対しまして特段のご配慮・ご支援を頂いております。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、私は鹿角市毛馬内の出身であります。十五年度末の教職員人事異動で大道政敏前校長の後任として湯沢高校から転入して参りました。

昭和三十九年三月に本校を「高校十六期生」として卒業して以来、四十年ぶりに母校に帰って参りました。

本校に在学した時の校長は、二十一代増田恒一校長

## 母校に着任して

校長 小松 雅治（高16期）

ご指導を頂きました。前任校はそういう縁のある学校で、昭和四十三年に教員生活を始め、初任者として五年間育て頂いた学校でもありませんが、母校に帰って来て勤務をすることが出来ることは教員として何より幸せな事であり

生徒に対して「伝統に甘えることなく、在校生が輝いてこそ本校百年を越える歴史と伝統が一層輝きを増すのだ」ということを話しました。文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）も二年目を迎えました。この

指定を本校の教育活動の活性化に大いに役立てたいと考えております。

平成十六年度、生徒八百二十二名、職員七十九人です。スタートいたしました。本校の校是である「文武両道」を体現すべく、生徒・職員

共に一層の校勢の高揚に努力する覚悟であります。会員の皆様の益々のご活躍が在校生にとつて大きなモチベーションになるものと考えております。鳳鳴会の一層のご発展、会員の皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、母校への変わりぬくご支援をお願い申し上げます。

増田恒一校長

お願ひ申し上げます。

ピーチがあり、中でも先の選挙で比内町長に当選した比内大中鳳鳴会佐藤賢一郎会長（高校18）には激励が寄せられた。

後半はテーブル毎の応援歌合戦となり、大中の先輩の歌声が一番元気も音程も良く、年齢が下がる程調子が外れていると感じたのは私だけではないと思う。最後に代表当番期の十六期の音頭で全員で校歌を合唱し盛会裡に終わった。常任理事 小棚木政之（高38）

平成16年度 鳳鳴会三役	
会長	木村 高明（高12）
副会長	佐藤 祥男（高7）
副会長	小泉 樺子（高16）
副会長	時苗 誠（高18）
副会長	桑名 秀明（高33）
副会長	小松 雅治（校長）
副会長	越前 和俊（高20）
会計監査	中田 直文（高21）
会計監査	浅利 大造（高30）
事務局長	平泉健之助（高8）



Document  
D 鳳鳴会  
総会



鳳鳴高校を卒業してからも八年、そしてアメリカでの生活も今年で八年目を迎えようとしています。鳳鳴高校在学中に一年間アメリカのバージニア州で留学したのが私のアメリカでの生活の始まりでした。

そして九十六年に鳳鳴高校卒業後、ブリガムヤング大学ハワイ校へ入学し、二年間国際ビジネスを学びました。全校生徒二千人余りと本当に小さいのですが、アメリカ、南アメリカ、アジア、ポリネシア諸島など七十ヶ国余りから生徒が集まる特別な学校でした。全く違う環境、文化、そして言語の中で生活してきた人々と小さなキャンパスで共に学び交流することができた

のは本当に貴重な経験でした。

キャンパスに隣接するポリネシア文化センターで日本語ツアーガイドとして働くことができたのも忘れられない思い出のうちの一つです。ポリネシア文化センターでは、センターの中に作られているポリネシアの七つの島から島へ力ヌーで（歩くこともできません）移動し、食生活、文化、踊り、音楽などを楽しく学ぶことができます。日本全国からいらつしやつたお客様とポリネシアの文化を分かち合います。お客様一人一人が感動され帰って行かれる姿を見るとときほど充実感に満たされたことはありませんでした。

一度大館からいらつしやつたお客様と会い、とても盛り上がったのもよく覚えていきます。

またたくさんの貴重な友人に恵まれたこともこの仕事をして得た祝福でした。学費を自分で働いて支払っている学生も多かったのです（センターのスタッフのほとんどがブリガムヤング大学の学生でした）、共にクラスで

私等には正確な意味が把握しきれないものになっている。これはどういふことなのでしょう。

けた。「だめなら誰かに書いていただいでかまいませんか

鳴会)

果たして、「肩書き」を並べているみた自分が多感ないで、私は決断していい気はし

# 海外だより

アメリカ・ペンシルバニア

## アメリカでの大学生活を振り返って

高校48期 宮平(土門) 恭子



ユタにあるフリスキャニオン国立公園で

学び、センターで毎日働き、いつも皆一緒だったように覚えていきます。互いに心から信頼し助け合い支え合える最高の友ができ、彼らから学び大きな影響を受けました。ハワイの真つ青な海、色鮮やかな花、そして暖かい穏やかな人々に囲まれ、幸せすぎるほど

のため毎晩図書館が閉館する深夜までとにかく必死で勉強しました。目標をはつきり持ちベストを尽くす時、必ず良い結果が得られると信じ、がんばりました。今振り返るとあんなに

や成績向上

「人間は暖かく心地よい環境の中では成長するのが難しい」という父の言葉も深く心に響きました。そしてよく考えた結果ユタ州の本校へ編入し言語学を学ぶことを決意しました。それから編入試験

と楽しい毎日でした。

ユタ州プロボ市にあるブリガムヤング大学本校への編入を決意したのは九十八年の半ばでした。自分の英語力が成長していないと痛感し、また本当に自分が何がしたいかを深く考えていた時、「英語を完全にマスターしたい、そしていつか通訳に挑戦したい」という強い希望を感じるようになったのがきっかけでした。

私がアメリカで学ぶ機会が与えられたのは必ず意味があり、私の成長のためにその道が備えられていたと強く感じます。これからも高い目標を持ち、このアメリカの地でベストを尽くしがんばつていけたらと思います。



卒業式



Document  
D 鳳鳴会  
総会・懇親会

# 会員投稿

## 「鳳凰」と「黎明」作者の山瀬さんと私

高6期 藤田 昇（仙台鳳鳴会）

彼女に感謝した。その勇気に感謝した。そのうちにセクシユアルハラスメントなどはないかと思われ表現さえある。意味を問うとなんとでも言い逃れができるのではない。同級生同士の間のことだから許されるというのだろうか。ライバルを讃える表現は好ましいのだが、見下す表現は淋しい。

かつて私も当時の「鳳凰69号」に十数人のプロフィールを分担した原稿を頼まれた方の口である。進学受験間際で最も焦りのあった時の分担依頼を心良くは思わなかった。同じクラスの仲間でも必ずしも心近くない人達の方もあつたから、迷惑をかけてくれたのではないかと激しい詰問口調のプロフィールを書きながら、係員にその原稿用紙を渡しておいた。

ほぼ一週間位が経過して、編集に携わっていた山瀬（当時黒澤）洋子さんが私のもとへ来た。「（かの）原稿を失つてしまいました。もう一度書き直して下さいませんか。」と言ふ。私は唖つた。難しい顔を引き付けさせたことだろう。彼女はそれでも臆せず続

生徒プロフィールの欄では、小字の添書が頻繁に使うことで表現を工夫していた時代だったと思う。此の度また少し気になったので再び覗かせていただくことで取寄せた。

今度はどうかという、携帯メール文字がプロフィール欄に氾濫し出して、これでは



うして下さい」と。永年思い続けて来た。「鳳凰」に友達の悪口が残ったりしなくて良かった。それで今尚、助けてもらった山瀬さんに感謝しているのだ。

だから「黎明」を推す。私は此の度やっと「黎明」を藤村の「夜明け前」に続けて読み終えることが出来た。何故なら、「夜明け前」を読んでいる最中に「黎明」が届いたからだ。この取材力はすごい。逝きご主人と山瀬さんの共同の作品として高く評価する。

表現の自由がこの度の週刊文春事件（04・3・26号）で話題になっている。誰もが憲法で保障された表現の自由があるのだが、それでも人を傷つけることは後になって悔いが残る。他人のプロフィールを残すとき、分かり易い言語で抑制の効いた表現を為されるように希望する。そして誰が書いたか、文責を明記すべきであろう。

以上、在校生に届くように願う。

## 同窓会は出会いの場

高42期 田口 雄一（東京鳳鳴会）

十八歳をすぎた学び舎を「卒業」出来るものか？ ちよつと大人びて、でも、本當の大人から見れば危なっかしくて、そういう不安定な、でも一生を振り返ったときに一番生命のエネルギーがみなぎっている三年間の自分の舞台だった場所を、高等教育は三年間、という日本の決まりにのっとつて物理的に卒業はできるが（落第は別よ）、「鳳鳴」は心や体の一部になつてしまつてはいまいか？ あるいは、なりえないのか？

在学中生徒会にとつぷり携わつていたとき、昭和四十年代の「鳳凰」に校長先生がよせる「巻頭言」に、「若人よ、生涯を通じて付き合うこと出来る、かけがえない友と出合い青春を謳歌せよ、成人してから作る人間関係とは全くかけ離れた、損得感情のない純粹無垢な友情が育まれる高校生活のなんとすばらしきかな云々」と書かれてあつたのだが、私はその校長先生の人柄に魅かれ、いたく感動した思い出がある。

「学力の向上」やら、「スパーサイエンス云々」が「巻頭言」を飾るのも立派でよろしいのだろうが、それは自らの在職期間中の栄えある

同じ頃の「鳳凰」にはすでに受験戦争の苦悩が綴られていたが、その中に、ある生徒のこんな手記もあつた。恩師が亡くなられたのだ。その時クラスの生徒が数名除いて皆告別式だったか、葬式だったかに駆けつけた。その生徒は師弟愛、人間愛の美しきことを讃え、翻つて、学校に残りひたすら自習にいそしんだ数名は全員大学受験に失敗したというコメントを添えていた。それを読みながら当時高校生だった私はニヤリとした。とてもうれしかった。友人の母堂の告別式に参加するため、担任の許可も取らずに部活の仲間と学校を抜け出したことがあつたからだ。そして、昭和四十年代に高校生だったその人と、二十年以上も離れた平成元年の高校生（私のこと）が、時空を超えて、人を尊く思う気持ちを共有してきたような気がしたからだ。

同窓会つて、同じ学年のひととの「再会」だけでなく、新しい人たちの「出会い」の場という意味合いもあるはずだ。

それを期待して、今年は東京鳳鳴会に参加しようと思ふ。とりあえず、HPには大きく掲示されていない気がしている。近いうちにアップするのかな？

彼女に感謝した。その勇気に感謝した。そのうちにセクシユアルハラスメントなどはないかと思われ表現さえある。意味を問うとなんとでも言い逃れができるのではない。同級生同士の間のことだから許されるというのだろうか。ライバルを讃える表現は好ましいのだが、見下す表現は淋しい。

かつて私も当時の「鳳凰69号」に十数人のプロフィールを分担した原稿を頼まれた方の口である。進学受験間際で最も焦りのあった時の分担依頼を心良くは思わなかった。同じクラスの仲間でも必ずしも心近くない人達の方もあつたから、迷惑をかけてくれたのではないかと激しい詰問口調のプロフィールを書きながら、係員にその原稿用紙を渡しておいた。

ほぼ一週間位が経過して、編集に携わっていた山瀬（当時黒澤）洋子さんが私のもとへ来た。「（かの）原稿を失つてしまいました。もう一度書き直して下さいませんか。」と言ふ。私は唖つた。難しい顔を引き付けさせたことだろう。彼女はそれでも臆せず続

### 会員投稿





奈良明子さん（高校39期）（渋谷区議会議員）

# おじゃまします

この度は大輪の花を紹介いたします。

今年のアメッコ市直後の地元紙で大々的に報道されましたので、「ご存じの読者もおいでしょ」が、奈良明子さん（高39期）渋谷区議会議員をお忙しい身ですので電話でインタビューです。

実は私と彼女とは、家族ぐるみの親戚以上のおつき合いでして、「やったネ アッコ」といったところでした。

Q「どうして渋谷区なの？」

A「インターネットで渋谷区で議員候補を公募していたのを見て応募したら最終選考まで残って自民党の公認候補として立候補し当選

させてもらいました。渋谷区は八子公の縁で大館と姉妹提携していることも知っていましたし…」

Q「その時大館のご両親は何て云ったの？」  
A「気でも違ったのかって。驚いていました」

Q「議員として一年以上経った今の心境は？」  
A「考えていた以上にハードスケジュールで時間がいくらあっても足りません」

Q「郷土のため、母校のために何か一言を」

A「私の故郷、大館がより多くの方々に知ってもらえる様に微力ですが力を尽くしていきたいと思えます。私の一挙手一投足が、後輩の皆様が与えられることができるように努力していきたいと思えます」

彼女のプロフィールを紹介いたします。

大滝温泉出身で、高校（39期）卒業後、武蔵野女子短大を経て安田生命に就職してOL生活をしておりましたが、幼い頃からの夢であるスチューデスをあきらめきれず、スチューデス養成校に通い全日空客室業務渋谷区クリーンキャンペーン

全日空の後輩と、友人で女性後援会の方とタバコの水イ捨てや、「ゴミ拾い」をしました。藤原渋谷区長を囲んで



広報委員長 小泉慎子（高16）

員となり約六年間勤務いたしました。

その後、女性企業家としてコンサルタント会社を起し現在に至っております。

子供の頃から親のお供でディナーショーを楽しんだり、鳳鳴時代には学生バンドを組んでボーカルを担当し、アチコチより声がかかり、鳳鳴のアイドルでした。読者モデルとしてファッション雑誌にも時々登場して女性ファッションリーダーとしても活躍中です。

久し振りにお話ししましたが、未娘の甘ったれの面影は感じられず、さすが歯切れの良い話し振りは、華やかな世界に身をおいているにもかかわらず謙虚さもそなえていてこの大館鳳鳴から飛び出した「おおとり」そのものを感じました。これからの益々のご活躍を期待しております。

## シリーズ8 校歌原曲版

高29期 佐藤 信博

校歌は百周年の翌年から原曲版が実施されていますが、同窓の方々から疑問の声も多聞かれます。当時原曲譜の考証や伴奏譜の検討に励んだ立場から、歌い方の違いや経緯などについて説明を補い、今後のご参考に供したいと思えます。

従来の歌い方では「…もとは谷間のいくしずく、おおぎと…」と、素早く息を吸って続ける所を、原曲版では「いくしずく」のあと、一拍しっかり息を吸ってから「仰ぎて」に入るの大きな相違点です。そして初めの「あ」に力点を置き躍動的にはつらつと歌うことで、図に示したような作曲上異例の斬新な試み、4拍子（x3）の枠に3拍子（x4）のリズムが内在（特に四番で明確）がさがされると

2拍子	3拍子	2拍子	3拍子	…(いろいろな区切り方あり)
従来 い-く し-ず く、	あ-お-ぎ-  て-  く-み て-	け-  い-  せ-つ の-	い-さ お-	
全体4拍子	(3拍子)	(3拍子)	(3拍子)	(3拍子)
原曲 い-く し-ず く-	あ-お-ぎ-  て-  く-み て-	け-  い-  せ-つ の-	い-さ	
(4番) か-た ど-り を-	お-お も-  え-  お-お だ-	て-  ちゅ-  う  が-く の-	お-し-	

従来版（80周年盤）は鳳鳴会HPで、原曲版伴奏は携帯電話（<http://www.town.tashiro.akita.jp/i/>）で聴けます。

多くの方々にとっては、原曲の正当性をいくら説明されても違和感はぬぐえないかも知れませんが、この校歌が格別

まり、それが定着して楽譜化されたと考えられます。（八十周年レコードなど）。これは自然で歌いやすいのですが、拍子の変則になるため、あとの部分のどこかで間を延ばして整合させる工夫も行われています。（百周年CDなど）。昭和初期の数字譜に基づく原曲版の楽譜は、昭和五十二年に応援歌等検討委員会が歌集に採用し、録音テープが制作され野球の大会などで使われてきました。しかし徹底されず実際の歌い方はほとんど旧来に戻っていたようです。百周年直後の校訓等検討委員会では、校歌についても確定するべく、楽譜の調査結果も参考に改めて原曲版が選択されました。原作の尊重という原則的な立場のほかに、確定統一に際して従来の歌い方では、間合いや音程について識者でさえも見解が分かれ標準の楽譜を定めるのが困難なこと大きな要因です。この決定を受けて、在校中作成の伴奏譜を手直しさせてもらいましたが、原曲版を標準としつつ複数の従来版も併記して場に応じた対応ができるように工夫しました。

の歌い方も関わっているはずですが、原作尊重とともに、歌の生命力を支える「思い」の積み重ねも継承していきたいものと考えます。【訂正】三十一号掲載 野球遠征の歌の一番「峯巒」は「峯巒」の誤りでした（原曲は「峯巒」）。

## 歌の由来から見た 大中鳳鳴

**祝**  
**叙勲**

春の褒章・生存者叙勲で次の同窓諸氏が受章しました。おめでとうございます。

藍綬褒章（地方自治功労）菅原龍典氏（高校14期・秋田県議会議員・比内町） 旭日小綬章（地方自治功労）阿部理一氏（大中43期・元鹿角市議会副議長・鹿角市） 瑞宝小綬章（消防功労）蒔苗進氏（大中45期・元大館市消防団長・大館市） 旭日双光章（地方自治功労）今井乙磨氏（大中39期・元阿仁町長） 瑞宝単光章（看護功労）藤野純子氏（高校15期・元東北大学医学部付属病院看護師長・仙台市）

**同窓**  
**動静**

佐藤敬治氏（大中35期・本会顧問・元衆議院議員）「立ち上がり 大町商店街」と題して4月15日から4回にわたって北鹿新聞紙上に掲載。周囲を大型店スーパーで固められ、さらに過疎によるドーナツ化現象が心配される大町商店街を魅力的にするために、アーケードの除去、大町広場を作る、寺町通りを田町球場まで貫通するなどの提言をし、大町に対する熱い思いを寄せている。5月10日の鳳鳴会総会には、同期生の齋藤稔、石田敬一、後藤照三郎の各氏と共に元気な姿を見せた。佐藤賢一郎氏（高校18期・比内大中鳳鳴会会長）3月7日に行われた比内町長選挙で、合併に反対し自立を決定した現職を破って初当選した。佐藤氏は東大卒業後、本田技研工業技術研究所に入社し、初代シビックのエンジン開発にかかわった。平成12年に比内町議に初当選。鳳鳴会総会のあいさつでは、住民投票で合併問題の解決を図ることを明言し大きな拍手を受けた。進藤真由美氏（高校35期）昨年京都大学で博士号を取得し、北鹿新聞紙上で紹介された。化学用機器販売・開発を行なう「アポライトバイオシステムジャパン」（本社・東京）に勤務しているが、専門は「タンパクからの創薬ターゲットの研究」である。4月からは「ヒュ



ーマンサイエンス振興財団」で官民共同のプロジェクトに取り組んでいて、病気のひとと健康な人の体内のタンパク質の違いを調べる研究をしており、集めたデータは将来創薬に生かされるという。「研究が好き。それが人のためになるのなら」と真摯に研究に打ち込んでいる。理数科から群馬大工学部合成化学科へ進み、神戸市在住。（北鹿新聞5月2日掲載より）

**寄贈**  
**図書** 峰伏路（みね・ふくろ）著「シマの一族」第1部・第2部 新風社発行（各¥1,400）\*著者は本名小笠原常夫氏（高校21期）。現在、北海道釧路市でクリニックの院長を勤めるかたわら、執筆活動を行なっている。「漱石の『吾輩は猫である』以来の傑作である。巷間猫ものが氾濫するなかで、これは北海道の厳しい自然と対峙し、何世代にもわたって生きる猫軍団の一大叙事詩であり、一精神科医の目と心がとらえた、実に生々しい猫たちの迫真の描写である。われわれ人間の生きる影や問題点をも見事に照射した、掛け値なしに出色の読み物だ。山中康裕（京都大学教授）」カバー帯より



「大館・能代空港が開港して早6年。大館に空港なんて夢の又夢だったが...」一番機のパイロットとその時の管制官が鳳鳴出身であったという、いきなはからいを最近お互いに知ったという。今では空港内に鳳鳴会があって、時にはノミニケーションを図っているという。



平成16年度  
県北総体他

- 県北高校総体他
    - 野球部
    - 春季県北高校野球 優勝
    - ラグビーフットボール部 優勝
    - バドミントン部
    - 男子団体 優勝
    - 男子個人
    - 橋本慎吾 斎藤淳一 組 優勝
    - 陸上競技部
    - 男子 総合・トラック・混成・四〇〇Mリレー・一六〇Mリレー 優勝
    - 菅原隼人 一〇MH優勝
    - 藤原聡一 走高跳優勝
    - 8種競技優勝
  - 佐藤 亮 棒高跳優勝
  - 本間敬一 三段跳優勝
  - 女子 総合・トラック・混成
  - 一六〇Mリレー 優勝
  - 渡邊貴子 三〇〇M優勝
  - 鳴海裕香 一〇〇MH優勝
  - 高橋歩惟 四〇〇MH優勝
  - 石崎 恵 7種競技優勝
  - 水泳部
  - 男子団体 二位
  - 田山穂高
  - 男子四〇〇M自由形 優勝
  - 男子八〇〇M自由形 優勝
  - (大会新)
  - (県高校新)
- 全県高校総体
    - 陸上競技部
    - 男子 総合準優勝
    - 一六〇Mリレー 三位
    - 佐藤 亮 棒高跳優勝
    - 藤原聡一 混成8種二位
    - 本間敬一 三段跳優勝
    - 走り幅跳 二位
    - 菅原隼人 一〇MH二位
    - 女子
    - 石崎 恵 混成7種一位
    - 渡邊貴子 三〇〇M二位
    - 三沢祐利恵 三〇〇M三位
  - アーチエリート部
  - 男子団体 二位
  - 男子個人
  - 青柳健隆 優勝
  - インターハイ出場
  - 登山部 女子団体 三位
  - 全国総合文化祭出場
  - 美術部
  - 殿村雅美
  - 写真部
  - 黒澤絵里子 数字は学年
  - 切田麻衣子

**会員名簿 追加販売のお知らせ**

平成15年12月発行(最新版)の鳳鳴会会員名簿の追加販売をいたします。ご希望の方はご連絡下さい。

**連絡先** 名簿発送担当 (株)大館印刷

TEL 0186-42-0115 FAX 0186-43-3511  
MAIL o-insatu@gray.plala.or.jp

(※平成15年12月から平成16年2月にかけて販売されたものと同じものです。既にご購入されている方はお間違いのないようお気を付け下さい。)

**名簿仕様**

集録者 大中1期~鳳鳴55期までの卒業生及び在校生 約25,000名  
掲載項目 氏名(旧姓を含む)、住所、電話番号、勤務先、役職、最終学校  
サイズ A4版  
価 格 4,800円(送料・代引手数料・消費税込)



鳳鳴会名簿委員会

地区会名	会 長	事務局	事務局 住所	電 話
東京 鳳鳴会	村上 芳明(高14)	工藤禮次郎(高5)	〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-3 (株)24スタジオ内	03-3221-4766
仙台 鳳鳴会	奥田 惇二(高4)	大高 剛一(高23)	〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院2-2-78 サンチュリー(株)内	022-262-2885
札幌 鳳鳴会	関 信弘(大37)	和田 稔(高4)	〒062-0042 札幌市豊平区福住2条8-10-21	011-854-4845
名古屋 鳳鳴会	相馬 通明(高8)	工藤 博道(高25)	〒448-0013 愛知県刈谷市恩田町6-62-2	0566-27-0648
青森大中鳳鳴会	安井 稔(高10)	高橋 一己(高31)	〒030-0944 青森市大字筒井字八ツ橋1293-26	090-9632-7176
秋田市鳳鳴会	野口 修平(高17)	柴田 司(高27)	〒010-0933 秋田市川元松丘町4-59 武内印刷(株)内	018-862-8754
能代 鳳鳴会	佐藤 貞三(高8)	北林 孝(高21)	〒016-0171 能代市河戸川字上相染下16	0185-52-9453
鹿角市鳳鳴会	佐藤 一(高2)	清水 順義(高15)	〒018-5201 鹿角市花輪字下中島113	0186-23-6623
鷹巣 鳳鳴会	岩谷 敏男(高2)	中川 真一(高26)	〒018-3315 北秋田郡鷹巣町宮前町9-69 鷹巣町保健センター内	0186-62-6666
森吉町大中鳳鳴会	金 与恵門(大42)	桂 邦夫(高8)	〒018-4301 北秋田郡森吉町米内沢字御嶽50-1	0186-72-3582
阿仁 鳳鳴会	濱田 章(大40)	福島 晴(高7)	〒018-4613 北秋田郡阿仁町銀山下新町5-8	0186-82-3115
田代 鳳鳴会	猪野 慶(高4)	中村 勇(高19)	〒018-3501 北秋田郡田代町岩瀬字大柳86-2	0186-54-2608
比内大中鳳鳴会	佐藤賢一郎(高18)	米澤 健一(高3)	〒018-5701 北秋田郡比内町扇田字中扇田18	0186-55-0602
小坂 鳳鳴会	川田重三郎(高7)	近藤 肇(高26)	〒017-0292 小坂町役場 農林振興課内	0186-29-3912

この会報は、みなさんの会費(年二、〇〇〇円)で作られています

謹んでご冥福をお祈りいたします

平成15年度物故会員

- 平成十五年四月
  - 伊藤 洋さん(高3期)
  - 茂内 亨さん(高28期)
  - 日景善右衛門さん(高44期)
- 平成十五年五月
  - 今村芳之助さん(高32期)
  - 菅原 吉隆さん(高40期)
  - 鎌田 時蔵さん(高37期)
  - 藤原九二三さん(高35期)
- 平成十五年六月
  - 仲澤 栄蔵さん(高36期)
  - 芳賀 裕美さん(高7期)
  - 野口 夕希さん(特別会員)
  - 杉江 政直さん(高26期)
- 平成十五年七月
  - 工藤 通弥さん(高45期)
  - 近藤 比久さん(高7期)
  - 石川 文三さん(高33期)
  - 小林 庸樹さん(高16期)
- 平成十五年八月
  - 佐藤 博基さん(高44期)
  - 根本 方夫さん(高29期)
  - 後藤美智子さん(高12期)
  - 渡辺 健三さん(高46期)
  - 渡辺 敬吾さん(高5期)
  - 高橋 寛さん(高43期)
  - 相澤富樫孝子さん(高9期)
  - 松本 成雄さん(特別会員)
  - 石井 俊六さん(高2期)
  - 木村 了さん(高4期)
  - 西嶋 正三さん(高31期)
  - 釜谷 捨巳さん(高41期)
  - 小松 繁雄さん(高5期)
  - 高橋 禎一さん(高34期)
  - 明間 重遠さん(高21期)
- 平成十五年九月
  - 齋藤 謙三さん(高26期)
  - 武内 圭造さん(高7期)
  - 羽沢 章さん(高41期)
  - 西村 祐治さん(高12期)
  - 石井木村仁さん(高7期)
  - 今村 清さん(高33期)
  - 佐々木潤之助さん(高45期)
  - 米澤 耕さん(高4期)
  - 木村新太郎さん(高3期)
  - 本城谷政公さん(高4期)
  - 明石善次郎さん(高36期)
  - 阿部 忠也さん(高10期)
  - 麻戸 忠男さん(高17期)
  - 羽沢 清幸さん(高3期)
  - 三浦 芳夫さん(高46期)

収入の部				
科目	15年度予算額	決算額	増減	摘要
1 繰越金	950,705	950,705	0	
2 入会金	1,008,000	1,008,000	0	3,600円×280名
3 会費	4,000,000	5,045,000	1,045,000	1,591件(郵便局1,577件 銀行14件)
4 寄付金	3,000	0	3,000	
5 雑収入	2,000	7,758	5,758	定期預金利息 711 普通預金利息 17 105周年会計より 7,030
合計	5,963,705	7,011,463	1,047,758	
支出の部				
1 庶務費	1,740,000	1,479,789	260,211	
(1)会議費	250,000	181,550	68,450	総会 62,550 理事会 119,000
(2)事務費	330,000	328,009	1,991	インターネットサーバ 88,725 パソコンセキュアサーバ 23,259 データ入力他 216,025
(3)賃金	480,000	480,000	0	給与、手当
(4)書籍料	130,000	110,860	19,140	1 ~ 154まで
(5)通信費	200,000	186,125	13,875	NTT 91,206 OCN 27,649 切手、ハガキ 67,270
(6)接待費	50,000	20,840	29,160	篠山鳳鳴との交流会
(7)慶弔費	100,000	76,403	23,597	弔電、祝電 41,383 慰労金他 35,020
(8)雑費	200,000	96,002	103,998	新聞広告料 62,678 S26年会員名簿 4,600 ファイル他 28,724
2 会報発行費	2,100,000	1,908,174	191,826	
(1)印刷費	700,000	678,447	21,553	会報31号 271,162 会報32号 142,170 封筒他 265,115
(2)通信費	1,300,000	1,169,405	130,595	会報発送(2回) 1,095,715 袋詰め手当 70,000 切手 3,690
(3)旅費	50,000	46,832	3,168	篠山鳳鳴(取材費) 40,000 青森大中鳳鳴会 6,832
(4)雑費	50,000	13,490	36,510	記念館リーフレット写真代 10,000 セロテープ他 3,490
3 事業費	1,741,000	1,588,046	152,954	
(1)連絡費	1,100,000	957,680	142,320	各地区会旅費 会議旅費補助
(2)歓迎費	190,000	130,366	59,634	卒業記念品(卒業ケース) 270本×655円
(3)助成金	450,000	500,000	50,000	各地区補助金 320,000 全国大会饗別 180,000
(4)寄付金	1,000	0	1,000	
4 積立金	200,000	1,000,000	800,000	
5 予備費	182,705	0	182,705	
合計	5,963,705	5,976,009	12,304	
繰越		1,035,454		031 0592627 北都 大館
鳳鳴会基金積立金 5,350,000円				

収入の部				
科目	15年度予算額	16年度予算額	増減	摘要
1 繰越金	950,705	1,035,454	84,749	
2 入会金	1,008,000	975,600	32,400	3,600円×271名
3 会費	4,000,000	4,000,000	0	2,000円×2,000名
4 寄付金	3,000	3,000	0	
5 雑収入	2,000	1,400	600	
合計	5,963,705	6,015,454	51,749	
支出の部				
1 庶務費	1,740,000	1,840,000	100,000	
(1)会議費	250,000	250,000	0	理事会 総会
(2)事務費	330,000	430,000	100,000	チラシ代 210,000 インターネットサーバ、更新費用 200,000 他 20,000
(3)賃金	480,000	480,000	0	給与、手当
(4)書籍料	130,000	130,000	0	
(5)通信費	200,000	200,000	0	NTT、切手、ハガキ他
(6)接待費	50,000	50,000	0	
(7)慶弔費	100,000	100,000	0	
(8)雑費	200,000	200,000	0	新聞広告他 記念館充実費 50,000
2 会報発行費	2,100,000	2,100,000	0	
(1)印刷費	700,000	700,000	0	会報印刷、封筒代他
(2)通信費	1,300,000	1,300,000	0	会報発送、発送謝礼
(3)旅費	50,000	50,000	0	取材旅費
(4)雑費	50,000	50,000	0	写真代他
3 事業費	1,741,000	1,791,000	50,000	
(1)連絡費	1,100,000	1,100,000	0	各地区会旅費 会議旅費補助
(2)歓迎費	190,000	190,000	0	
(3)助成金	450,000	500,000	50,000	全国大会 150,000 各地区補助金 300,000 岩木山慰霊碑建立 50,000
(4)寄付金	1,000	1,000	0	
4 積立金	200,000	200,000	0	
5 予備費	182,705	84,454	98,251	
合計	5,963,705	6,015,454	51,749	

平成16年度 事業計画

1. 会報33号(6月) 34号(2月)の発行(2,100,000円)
2. 各地区鳳鳴会への参加並びに旅費補助(1,100,000円)
3. 各地区鳳鳴会への補助金の支給(300,000円)
4. 母校の全国大会出場生徒・顧問に饗別(150,000円)
5. 新入会員に卒業記念品の贈呈(190,000円)
6. 「岩木山遭難慰霊碑」の建立(50,000円)

平成16年度5委員会名簿

印は委員長 印は副委員長

小泉 慎子(副会長) 小松 宰(高15) 根田穂美子(高22) 谷川原郁子(高24) 柴田 司(高27) 小池 昌平(高36) 小棚木政之(高38) 五日市栄悦(教頭) 櫻庭由紀子(事務局)	赤平 一雄(高20) 小棚木政之(高38) 加賀 佐(高34) 米澤 正貴(高41) 三浦 孝之(高48) 高田 典雅(事務局次長)	ホームページ運営委員会	佐藤 祥男(副会長) 土田 哲(高3) 武内 政雄(高45) 田中 京子(高9) 三ツ倉和雄(高11) 山田 和人(高29) 菅原 明雅(総務部長) 小松 良平(事務局)	名簿委員会	蒔苗 誠(副会長) 乳井 宏資(高10) 高橋 彰彦(高6) 庄司富佐男(高8) 菅 大輔(高16) 明石 宏康(高37) 佐藤 博(事務局) 松江真由美(会計)	財政委員会	桑名 秀明(副会長) 菊池 和夫(高2) 松江 長成(高45) 山田 亮逸(高1) 浜松 和男(高4) 成田加奈子(高14) 戸枝 正樹(高19) 鎌田 健一(教頭) 成田 毅志(事務局)	企画委員会
---	---	-------------	--	-------	--	-------	--	-------

広報委員長の小泉さんからお誘いを受け、初めて参加させていただきました。「より親しみやすい会報に」と、スタッフ一同、熱心に取り組んでいる様子を目にしてそのご苦労を知っただけでも意義あるものでした。  
 多方面で力不足の私ですが、ただ一つ皆様と同じレベルで語り合えることがあるとすれば鳳鳴への愛校心なのだと思われたい。愛校心のつながりが同窓生同士の距離を縮めていく。広報活動はその重要な役割を担っています。鳳鳴会がより充実した活動を維持していくためにも卒業生一人一人の積極的な参加が

校了! つぶやき -For closing-

望まれます。会費納入に関しても忘れたいことの一つであると実感いたしました。  
 22期・根田穂美子  
 O Bの皆さん! 朗報です。今年の鳳鳴の国公立大合格率がなんと48.5%、鳳鳴生がこんなに優秀だったなんてオドロキ。(昔はパンカラだけが、取り柄?失礼!)後輩達に負けないう、しっかりやらなくては!  
 24期・谷川原郁子

ホームページがリニューアルしました

鳳鳴会公式ホームページ <http://www.homei.jp/>

住所変更はホームページでもできます